

にこにこ通信 6月号

『想像力を育てましょう』

雨が降りやすいこの時期は、室内での遊びが中心になります。この機会に、子どもの想像力を育てる遊びの環境を考えてみませんか。

想像力は、いろいろなことを思考したり、相手の気持ちを推理したり、自分の思いを持つ力へとつながっていきます。赤ちゃんの間は自分の興味があるものを見たりふれたりする遊びが中心になりますが、1歳半ぐらいになると遊びの中に想像力が少しずつ生まれてきます。

高価なおもちゃを用意しなくても、ヨーグルトカップやペットボトルなどの身近な廃材もりっぱなおもちゃになります。これらを車や食べ物など身近なものに見立てて遊ぶことで、子どもの想像力が育っていきます。

特に、ままごと遊びは男女関係なく子どもは大好きで、見立て遊びからごっこ遊びに発展していくのでおすすめです。人形を用意すると、子どもが「お父さん」「お母さん」になりきって遊びも発展していきます。

ひとつ気をつけていただきたいのが、お父さん、お母さんたちが日常使っているスマートフォンや携帯電話です。子どもはとても興味を持ち使いたがりますが、画像からの刺激は想像力にはつながりません。むしろそういう画像は一度見ると、どんどん見たくなくなって時間が長くなります。大人がはまってしまうものは、子どももはまってしまう中毒性があり、一度見て楽しさがわかるとなかなかやめられません。子どもにはスマートフォンや携は、できるだけ見せないようにしましょう。

あと、遊びでぜひ取り入れていただきたいのが、子どもが指先を使うおもちゃです。

指先を使うと脳の働きが活発になると同時に、指先の動きがなめらかになり、細かい動きができるようになっていきます。子どもが持ちやすいものや、つまんだりできるものを用意してあげましょう。たとえば、赤ちゃんのおもちゃだと、握って音が出るおもちゃなどがいいと思います。

「これは何かな？」と赤ちゃんは口に物を入れる探索活動がある時期なので、飲み込んでしまう可能性がある細かいおもちゃは危ないです。目安としては 500 円玉ぐらいの大きさのものは赤ちゃんは飲み込めるので、それより小さいものを赤ちゃんの近くに置かないように心がけてください。

元気づくり課子育て支援センター

☎ (919) 6001